

ミカンナガタマムシの羽化消長と各種薬剤の効果

本種の幼虫は、カンキツ樹の主幹部等の形成層を食害し、樹勢低下や枯死を引き起こすことが知られている。一方、本県においては、薬効や羽化消長についてほとんど試験されていない。そのため、本県のミカンナガタマムシの羽化消長と各種薬剤の効果について検討した。

(調査方法)

令和7年12月9日に、本種に寄生されたウンシュウミカン（大洲市長浜）を切り出し、衣装ケースに入れて、果樹研究センター内の雨除けの網室で保管し、羽化消長を調査した。

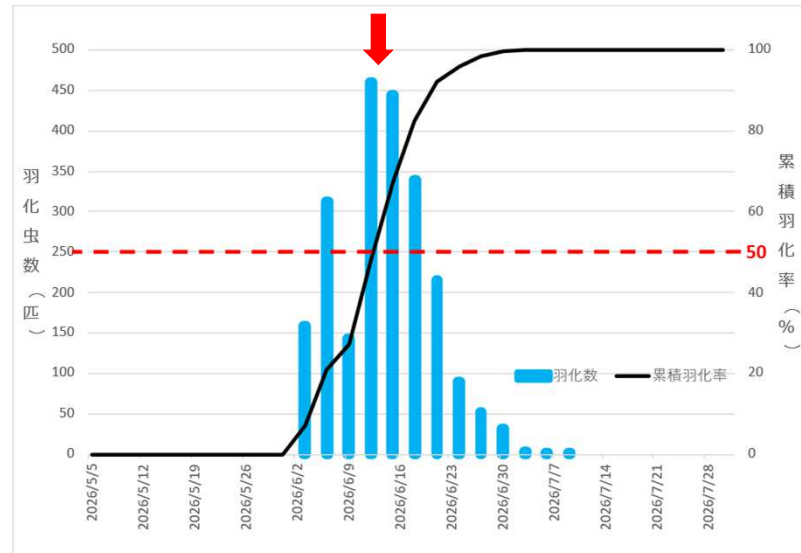


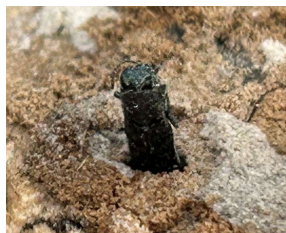
図1 ミカンナガタマムシの羽化虫数と累積羽化率

本種の羽化のピークは
6月第2～4半旬頃（6/6～20）



防除は成虫発生盛期にあたる
6月第3～4半旬
と考えられる。

ミカンナガタマムシの脱出の様子（左）と脱出孔（右）



(薬剤試験 令和8年6月10日～7月6日実施)

供試虫：左記のウンシュウミカンから羽化してきた個体を供試した。

試験方法：直接殺虫試験は、各種薬剤に虫体を浸漬し、風乾後、無処理の樹に5頭ずつ放虫し、5～7日後に生死判定と被害程度を無、少、中、多に分けて調査し、被害度指数を算出した。残効試験は、各種薬剤を散布した樹に5頭ずつ放虫し、5～7日後に生死判定と被害程度を無、少、中、多に分けて調査し、被害度指数を算出した。

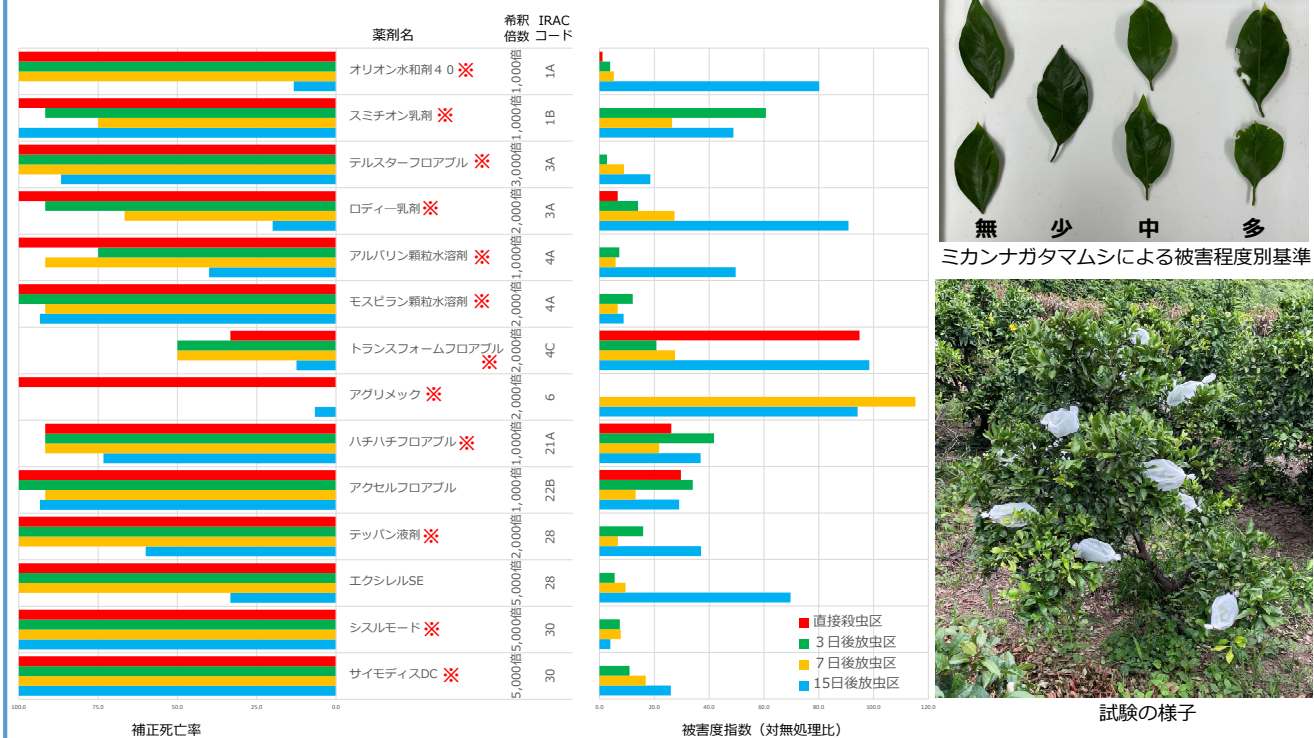


図2 各種薬剤の防除効果 補正死亡率（左）と被害度指数（右）

- 直接殺虫試験では、トランスフォームフロアブルを除くすべての剤で効果が高かった。
- 残効試験では、アグリメックとトランスフォームフロアブルを除く薬剤で7日後までは多くの剤で効果が高く、特に**テルスターフロアブル、モスピラン顆粒水溶剤、アクセルフロアブル、シスルモード、サイモディスDC**は被害指数も低く、15日後まで効果が高かった。

※注意

本試験で供試した各種薬剤は、ミカンナガタマムシへの登録はありません（アクセルフロアブル、エクシレルSEは除く）。



ミカンナガタマムシによる被害程度別基準



試験の様子